

子どもの病気く中耳炎についてく

プールに行つて耳に水が入り中耳炎になったとか、飛行機に乗つて中耳炎になったとかいう話をよく聞きますが、正しいのでしょうか。

鼓膜の奥にある中耳腔という小さな部屋に炎症を起した状態が中耳炎ですが、この中耳腔は耳管という細い管を介して鼻の奥にある上咽頭につながっています。耳管には中耳腔の気圧の調節や換気をしたり、中耳腔に感染した細菌やウイルスを排除したりする働きがありますが、幼児期は耳管の働きが大人ほど発達しておらず、耳管自体が短く上、その傾きも水平に近くなっているため、上咽頭から中耳腔に炎症が及びやすく、大人に比べて中耳炎になりやすいのです。

急性中耳炎

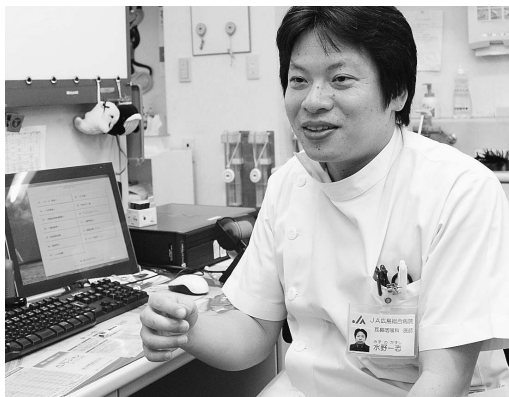
上咽頭に感染した細菌やウイルスが、耳管を経由して中耳腔内に感染することで発症します。発熱・耳痛が主な症状で、内服や鼓膜切開を行い

治療します。急性中耳炎を繰り返し、耳漏（耳だれ）を繰り返すと鼓膜に穿孔ができて慢性中耳炎となります。

滲出性中耳炎

急性中耳炎が完全に治りきらなかった場合や耳管機能の低下が原因で中耳粘膜の腫れを生じ、粘液が中耳腔内に貯まることにより発症します。耳がつまつた感じや聴力低下が主な症状で、内服薬や鼓膜を切開して治療しますが、難治性の場合には鼓膜切開後に鼓膜チューブを留置します。幼少期に滲出性中耳炎を繰り返すと、鼓膜の上皮の一部が中耳腔内に陥入することがあります。これを真珠腫性中耳炎といいます。これを進行する場所によっては髄膜炎や顔面神経麻痺・めまい・難聴などの原因になります。これは骨を溶かしながら進行する恐い病気で注意が必要です。

プールに行つて耳に水が入っても、鼓膜に穴のあいた状態でもないかぎり、中耳腔



に直接水が入ることはなく、中耳炎にはなりません。飛行機に乗った場合は、機内の気圧の変化が生じるため、中耳腔内の気圧も相対的に変化し、特に着陸時に中耳腔が陰圧になるため耳抜きが難しくなります。風邪をひいている時やアレルギー性鼻炎の症状のひどい時など耳管機能が低下している場合には、耳管開口部周囲の粘膜の腫れ↓耳管機能低下↓中耳腔内の換気の低下↓中耳粘膜の腫れ↓粘液の産生や出血↓滲出性中耳炎を生じる可能性があります。

なるほど!!健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎@1610

佐伯地区医師会

みずの・かずし

水野 一志先生